

環境方針

環境基本理念

メビック株式会社は、顧客満足を第一に高い品質とサービスを提供すると共に、環境にやさしい物造りが出来る企業を目指します。

環境行動指針

環境保全活動を推進するに当り、以下の項目を掲げ、全社で取組みます。

- (1)環境関連法規や当社が約束したことを遵守します。
- (2)環境マニュアルに沿った環境目標の定期的見直しを行い継続的改善を実施します。
- (3)具体的取り組みとして、以下のことを推進します。
 - ①省資源・省エネルギー活動の推進
事業所内の整理・整頓・清潔・清掃に留意し、事業活動における電力・ガス・水等の資源、石油等化石エネルギーの使用量の節減等環境負荷の低減に努めます。
 - ②廃棄物の削減・分別処理
事業所から出る廃棄物を最小限にする努力をし、分別処理を推進します。
 - ③塗装材料使用量の削減の推進
塗料・シンナー等の原材料の使用量削減を推進します。
 - ④グリーン購入の推進
事務用品を中心にグリーン購入に努めます。
- (4)環境方針は全社員に周知徹底すると共に、社外の人にも公開します。

制定:平成20年 7月 1日
改訂:平成23年 7月 1日

代表取締役社長

◎事業所の概要

(1)事業者名および代表者名

メビック株式会社

代表取締役社長 尾崎 健一

(2)所在地

〒679-2218 兵庫県神崎郡福崎町田口284-2

(3)環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 品質保証課課長(兼) 尾崎 健一 ・連絡担当者 総務部 尾崎 雅美
TEL: 0790-22-6128 E-mail: info@mebic.jp

(4)事業内容

金属製品及び樹脂製品に関する塗装

(5)事業の規模

年 商 1億円 (第25期:2012年度)

従業員数 10名

工場・事務所敷地面積 794㎡

(6)事業年度

7月～翌年6月

(7)EA21認証登録の範囲

登録組織名 メビック株式会社

関連事業所 なし

活動内容 金属製品及び樹脂製品に関する塗装

◎環境活動の取組計画と評価及び今後の方向(その1)

今回は、期間2011年7月～2012年6月の目標と実績について評価しました。

取組計画		達成状況		評価(結果と今後の方向)
1. CO2排出量削減				
・電力 必要な所のみ電源を入れる	kWh (総量)	目標 実績 達成率	134,127.7 134,469.0 99.7%	△総量わずかに未達成、原単位未達成 ・リピート量産型は増加したが、高難度・低歩留・低価格などの注文が増加し、原単位が悪化している。
	kWh/百万円 (原単位)	目標 実績 達成率	1,219.3 1,344.7 90.7%	
・LPG 管理能力をあげて、適正温度管理推進	m ³ (総量)	目標 実績 達成率	16,514.0 15,052.0 109.7%	△総量では目標達成、原単位は僅かに未達成 ・生産量減少のため総量は減少したが、小ロット化と低価格化が進んでいるため、原単位が僅かに未達成となった。 ・今後も、適正温度管理及び効率アップ改善推進して行く。
	m ³ /百万円 (原単位)	目標 実績 達成率	150.1 150.5 99.7%	
・ガソリン エコ運転推進	L (総量)	目標 実績 達成率	3,743.8 3,683.1 101.6%	△総量では目標達成、原単位は僅かに未達成 ・生産量減少のため総量は減少したが、明石方面の遠距離営業(1.5tトラック使用)が増えたこと及び価格低下により、原単位が未達成となった。 ・リフトの空ふかし禁止の継続 ・エコ運転の推進の継続
	L/百万円 (原単位)	目標 実績 達成率	34.0 36.8 92.3%	
・軽油 エコ運転推進	L (総量)	目標 実績 達成率	6,057.8 5,824.8 104.0%	△総量では目標達成、原単位では未達成 ・生産(輸送)量が減少したことにより総量は達成したが、小ロット輸送及び価格単価の低下により、原単位は未達成となった。 ・効率的な運送の継続 ・リフトの空ふかし禁止の継続 ・エコ運転の推進の継続
	L/百万円 (原単位)	目標 実績 達成率	55.1 58.2 94.6%	
2. 廃棄物				
・汚泥排出量(廃塗料・廃プラを含む) 効率UP改善による排出量の削減	kg (総量)	目標 実績 達成率	15,876.0 20,400.0 77.8%	●目標大幅未達成 ・品質厳格化による再塗装・手直しの増加、納期対応や小ロット化による切替増のため塗料の使用残が増加。特に省力化のため廃粉体塗料を脱水せずに排出するようになったことが大きい。 ・効率UPの為の技能UPの継続□ ・多能工化の推進の継続 ・塗料適正在庫化と必要量発注の継続
	kg/百万円 (原単位)	目標 実績 達成率	144.4 204.0 70.8%	
・混合廃棄物 効率UP改善による排出量の削減	kg (総量)	目標 実績 達成率	6,517.0 7,350.0 88.7%	●目標大幅未達成 ・客先から持帰った廃梱包材、ラップ梱包や段ボール利用の油まみれの緩衝材など再利用出来ない物、塗装材料の梱包廃材などが増加したことによる。 ・保護材料及び仕切り顧客返却の継続 ・裏紙活用の継続
	kg/百万円 (原単位)	目標 実績 達成率	59.3 73.5 80.7%	

◎環境活動の取組計画と評価及び今後の方向(その2)

2. 廃棄物削減				
・引火性廃棄物 効率UP改善による排出量の削減	kg (総量)	目標 実績 達成率	2,352.0 4,200.0 56.0%	● 目標大幅未達成 ・注文構成の変化(リピート量製品が増加)により、多色化・色替え回数の増加に伴う廃洗浄液が増加したこと、更に棚卸時の不良塗料の一斉廃棄、排出時の揮発減量の中止、などによる。 ・ムダ防止活動の継続
	kg/百万円 (原単位)	目標 実績 達成率	21.4 42.0 50.9%	
3. 水使用量削減				
・水	m ³ (総量)	目標 実績 達成率	923.7 997.4 92.6%	● 目標未達成 ・トイレの漏水があり、目標未達成となった。 ・節水の更なる呼び掛けの継続 ・漏水チェックの継続 ・地下水使用の検討
	m ³ /百万円 (原単位)	目標 実績 達成率	8.4 10.0 84.5%	
4. 塗装材料使用量削減				
・溶剤塗料 社内不良削減によるムダな塗料の削減	kg (総量)	目標 実績 達成率	7,286.3 5,380.5 135.4%	○ 目標大幅達成 ・生産量が減少したこと、リピート量製品が増えたこと、注文毎に塗装材料を注文し在庫を減らしたこと、ムダな塗料の削減に努めたことなどによる。 ・社内不良対策による再塗装削減の継続実施
	kg/百万円 (原単位)	目標 実績 達成率	66.2 53.8 123.1%	
・粉体塗料 効率アップ改善の実施	kg (総量)	目標 実績 達成率	10,936.8 8,768.0 124.7%	○ 目標達成 ・生産量が減少したこと、リピート量製品が増えたこと、注文毎に塗装材料を注文し在庫を減らしたこと、ムダな塗料の削減に努めたことなどによる。 ・業務改善によるムダ防止活動の継続実施
	kg/百万円 (原単位)	目標 実績 達成率	99.0 87.7 112.9%	
・シンナー 効率アップ改善による使用量の削減	L (総量)	目標 実績 達成率	6,773.8 5,792.0 117.0%	○ 目標達成 ・生産量が減少したこと、リピート量製品が増えたこと、注文毎に塗装材料を注文し在庫を減らしたこと、ムダな塗料の削減に努めたことなどによる。 ・業務改善によるムダ防止活動の継続実施
	L/百万円 (原単位)	目標 実績 達成率	61.6 57.9 106.3%	
5. グリーン購入				
・事務用品のグリーン購入の推進	品目数	目標 実績 達成率	8品目 9品目 112.5%	○ 目標達成 ・日常、グリーン購入に努めた。 ・今後も、対象品目を増やして行く。

◎環境法規制の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

法規等の名称	遵守すべき主な要求事項	該当する設備・項目	評価
廃棄物処理法	・産業廃棄物処理委託契約書の締結	特管廃棄物 一般廃棄物	遵守
	・収集運搬・処理業者の許可証確認、許可証写し保管	特管廃棄物 一般廃棄物	遵守
	・産業廃棄物管理票(マニフェスト)交付 A、B2、D、E票の保管(5年間) B2、D票：90日、E票180日以内に送付されない場合は30日以内の知事への報告	引火性廃油 汚泥 廃プラ 混合廃棄物	遵守
	・飛散・浸透防止、衛生管理	廃棄物の取扱い	遵守
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	全ての産業廃棄物	遵守
大気汚染防止法	・特定施設の届出	塗装ブース 焼付乾燥炉	遵守
水質汚濁防止法	・特定施設の届出	脱脂設備 廃水処理施設 湿式ブース	遵守
騒音・振動規制法	・特定施設の届出 空気圧縮機・送風機等の特定施設	コンプレッサー	遵守
消防法	・危険物貯蔵所設置許可申請	貯蔵所	遵守
	・指定量以下の保管		
	・消防用設備等設置届	自火報	遵守
	・自動火災報知設備点検		
・消防用設備点検結果報告	消火器具	遵守	
PRTR法	・法的には要求されていないが自主的に把握する	PRTR対象物質	遵守

当社に関係する法規を見直し、環境関連法規等確認簿を作成して、遵守状況の確認をしました。その他、過去3年にわたり、関係当局よりの指摘、指導等はありませんでした。また、周辺住民からの苦情もなく、訴訟についてもありませんでした。

◎代表者による全体評価と見直し

<p>・2012年度の生産量については、前半(2012年7月～12月)は数%プラスが続き楽観視していましたが、後半は3月以降減産し大きく落ち込んだ結果、年間を通じては横這い乃至若干減り気味でした。従来は、単発でかつ高付加価値性のものが多く生産が不安定でしたが、最近、リピート量産型が増え安定感が増した反面、価格・売上とも低い傾向にあります。</p> <p>・目標達成状況については、二酸化炭素排出量(電力、化石燃料)の総量は達成しましたが、原単位は未達成に終わりました。これは、生産の小ロット化及び価格・売上の低下に依るものと推定されます。</p> <p>産業廃棄物については、顧客からの再利用できない引取廃棄物の増加及び廃塗料の排出時の減容処理省略により、大幅未達成に終わっています。水道水については、トイレ水漏れにより未達成でしたが、修理は終わりました塗装材料費については、生産量の減少はありましたが、リピート量産品が増えたこと、塗装材料の在庫を減らしたこと、ムダな塗料の削減に努めたことなどにより、総量・原単位とも大幅達成出来ました。</p> <p>以上のような状況の変化を踏まえ、今後は産業廃棄物はじめ目標の下方修正が必要と考えています。</p> <p>・社員のエコアクション21の取り組みに対する意識が一段と定着して来ました。今後とも、この意識を継続して、取り組みの徹底と環境目標達成に向け努力して行きたいと考えています。</p> <p style="text-align: right;">平成25年 9月 1日 代表取締役社長 尾崎 健一</p>
--